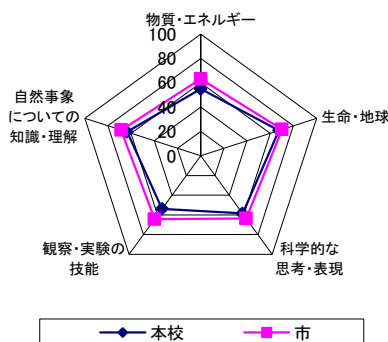


宇都宮市立鬼怒中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	54.8	63.0	57.9
	生命・地球	67.6	70.2	65.2
観点別	科学的な思考・表現	58.5	63.5	57.5
	観察・実験の技能	53.8	64.3	61.5
	自然事象についての知識・理解	63.6	68.6	64.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均正答率よりも8.2ポイント低い。内容を分析してみると、おんさの共鳴現象について理解し、空気が振動を伝えていること説明する問題が市の正答率に比べて、12.7ポイント低い。全国の平均点と比較しても低く、音の伝わり方の問題を苦手としている生徒が多いようである。 ○設問ごとにみていくと、有機物・無機物の違いについては、全国および市の正答率よりも高いものがあつた。	・「音の性質」についての領域は植物の領域などとは異なり、目には見えないものを扱うため、比較的理解しにくい分野である。したがって、実験を通して音による現象を実際に経験し、実体験に基づいた理解が求められる。また、生活に身近なところに音の現象が利用されていることを紹介し、関心を持たせる工夫をしていきたい。
生命・地球	●市の平均正答率よりも2.6ポイント低い。内容を分析してみると、前線を天気図上に記号で表す問題が市の正答率に比べて、10ポイント程度低い。全国の平均と比較すると、やや低く、資料を読み取って考察する問題を苦手としている生徒が多いようである。 ○設問ごとにみていくと、被子植物と裸子植物の分類や、シダ植物とコケ植物に共通する特徴、胚の成長などでは、全国および市の正答率よりも高いものがあつた。	・普段の授業の中で、新聞の天気図や気象庁から出された過去の天気データなどを多く用いて、天気図記号を使った実習の時間を多く設ける必要がある。 ・考察する力を伸ばしていくために、今後はさらに単元末テストや定期テストなどで、理由を考えるような問題を多く出題していく。